

エムズ・デーリィ・ラボ便り

「黄色ブドウ球菌性乳房炎の根絶プログラム」

黄色ブドウ球菌性乳房炎の症状の特徴は潜在性で、搾乳時にライナーや搾乳者の手を介して他の乳牛の乳房に菌が侵入する伝染性乳房炎です。感染牛を早く特定し、隔離し、最後搾乳を実施することが重要です。そして、乳房炎症状が消失し体細胞数が低くても、一度黄色ブドウ球菌性乳房炎に感染した牛は、感染牛として最後搾乳を続ける注意が必要です。

* 感染牛根絶プログラム

① バルクタンク乳モニタリング

継続して行うことにより黄色ブドウ球菌感染牛の有無を早期に確認することができる。

② 初乳モニタリング

黄色ブドウ球菌感染の確認において重要なモニタリングであり、経産牛のみならず、初産牛にも実施する必要があります。全ての分娩牛で初乳モニタリングを行い、分娩直後に感染分房を見つけることは、伝染を防ぐとともに早期治療につながります。特に初産牛は、分娩直後に治療することによる治癒率は非常に高いとされております。

③ 感染コントロール

- ・ 乳頭口の衛生
搾乳手袋を着用し、1頭1布による乳頭清拭をおこなう。
- ・ 効果的なポストテッピング
乳頭皮膚の保護。特に冬期での乳頭皮膚の損傷や凍傷を防止する。
- ・ 正常な乳頭口の維持
過搾乳の防止。
搾乳システムのメンテナンス。乳頭先端の真空圧の安定。
- ・ 乾乳期治療
全分房に乾乳期用抗生物質軟膏を注入する。